

第4回茨城県生涯学習・社会教育交流大会

大会テーマ

『はじめての一步～子どもたちの未来のために～』

令和7年2月15日(土)、茨城県鹿行生涯学習センターを会場に、第4回目となる茨城県生涯学習・社会教育交流大会を開催しました。コロナ禍もあり5年ぶりの対面での開催でしたが、鹿行地区の方をはじめ多くの方が参加されました。『はじめての一步～子どもたちの未来のために～』という大会テーマの下、ひきこもり・不登校の「理解」と「対応」のあり方や子ども食堂の体験活動と居場所づくりについての実践事例発表をとおして世代を超えて参加者が一体となり、私たちにできること一緒に考えました。



第1実践

ひきこもり不登校の「理解」と「対応」のあり方を探る
～すべての子ども・若者が自分らしく/生きやすい社会をめざして～
ひきこもり不登校/つながり考える鹿行の会 代表 小林 幸弘 氏

ひきこもり/不登校の問題は何か、行政資料、KHJ ひきこもり実態調査などによる現状の説明がありました。また、相談事例をとおしてひきこもりは生きるための反応、身を守る大事な適切な行為だと肯定すること。回復、解決の基本は人との信頼関係の再構築、まろごと受け入れてもらえたという安心感が大事であると発表されました。



第2実践

受け入れと愛を持った関わりが子どもの未来をつくる
NPO 法人あっとホームたかまつ 理事長 根本 紗千心 氏

法人の紹介では地域でみんなの子どもを育む活動を行っていることや子ども食堂では食事の提供だけではなく、子どもたちが様々なことに参加できることを目的としている。
また、子どもの特性について4つの事例を挙げ、その事例に共通していることは、人の話に耳を傾け、会話することから始まる。受け入れはありのままを認めることが必要であると発表されました。



グループ協議

グループ協議では、参加者同士、積極的に意見を交わす様子が見られました。また、いろいろな活動をしている方との交流や自分の考えをさらに深める時間となったとの声も多くありました。



アトラクション

「北浦童太鼓」の皆さんが、太鼓の演奏で会を盛り上げてくれました。迫力ある太鼓の音色は、聴く人の心の底にも響き渡りました。

